

四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

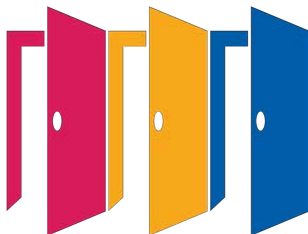
例会場：厚木アーバンホテル

例会日：毎週金曜日 12：30～13：30

事務局：厚木市栄町1-16-15 厚木商工会議所2階

厚木県央ロータリークラブ令報

<http://www.ken-ou-rotary.gr.jp/> e-mail : info@ken-ou-rotary.gr.jp TEL : 046-222-5811 Fax : 046-222-5821



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度R I テーマ 「ロータリーは機会の扉を開く」

2020-21年度厚木県央RC テーマ 「奉仕活動を通して地域社会に貢献する」

会長 高畑幸夫 副会長 神崎 進 幹事 能勢健一

第 1020 例会 (2020 年 7 月 17 日)

■点鐘 …高畑幸夫会長

■斉唱 …我等の生業

■ゲスト紹介



フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
代表 赤尾和美様

■会長報告

◎ガバナー事務所 より

- ・ロータリーカード地域コーディネーター(ビデオ)
第1回「ロータリーカードについて」のご案内

◎公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 より

- ・ハイライトよねやま VOL.244

■幹事報告

◎例会変更

- ・厚木RC
8月11日(火)→休会(定款第8条第1節により)
- ・海老名樺RC
7月16日(木)→夜間親睦例会 点鐘18:30
場所 レンブラントホテル海老名 ビアガーデン

7月23日(木)→休会(クラブ定款による)

8月13日(木)→休会(クラブ定款による)

■スマイル

高畑幸夫会長・能勢健一幹事

ラオフレンズ代表 赤尾様。本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。ゆっくり楽しんで下さい。

石井 卓君

この度は、亡き母の葬儀に際しまして、過分なお心遣いをいただき、心よりお礼申し上げます。

奉仕プロジェクト委員会

松本 豊君・関原敏文君・森 正章君・井 寛明君
和田貴樹君・関野耕正君・新川 勉君

今日は高畑年最初度の奉仕プロジェクト委員会担当例会です。内容はひたすら「終わっちゃった人」を強調する井直前会長年度のラオス報告例会です。井さんの残り火が消えない様に今後の為に頑張ります。

森 志朗君

本日は会員組織委員会の委員会を開催出来て本当に良かったです。皆さん新型コロナウイルスには充分気をつけて、元気良く例会に参加して下さい。スマイルも宜しくお願い致します。

井 寛明様

赤尾さん、お久しぶりです。コロナ禍で大変なご苦労をされていることと思いますが、頑張って下さい。今日は宜しくお願いします。

伊藤 一君・北村正敏君・土屋義行君・難波真奈美君
神崎 進君・守屋孝則君・荻野洋一君・山口昌興君

村松マユミ君・立脇孝二君・武藤元秀君

スマイルBOX

■会長タイム



皆様、改めましてこんにちは。今日は皆様に報告が2つございます。

先日、能勢幹事よりFAXが行ったと思いますが石井卓会員のお母さまがご逝去され、家族葬で執り行うとご意思のため、皆様のご参列はご遠慮下さいとの意向でした。そのため会長幹事でお焼香に行き参りました。クラブからは生花と香典を届けてまいりました。

石井会員からはコロナウイルスが猛威を振るっているので、皆様にご迷惑を掛けるわけにいきませんのでとの意向をお伝えくださいとお言葉を預かって参りました。

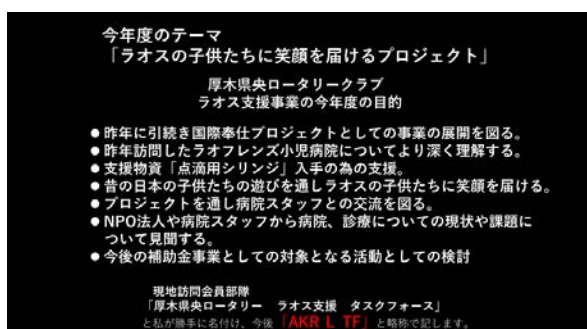
もう一つは最近、田口会員と岩堀会員の欠席が続いております。これもまたコロナウイルスでの感染防止と言う事で、井前会長が機転を利かせてお二方に無理しての出席を控えてくださいとお伝えしてのことですので、皆様ご心配なさらぬようお願い致します。

■例会「前年度（井年度）ラオス支援プロジェクト報告」

担当：奉仕プロジェクト委員会

高畑年度最初の奉仕プロジェクト委員会の例会行事は、井年度に行った国際奉仕事業「ラオス支援プロジェクト」を例会行事とさせていただきます。本来ならば前年度の委員会で、プロジェクト完了翌月の3月に報告例会を予定しておりましたが、御存知のとおりCOVID-19の影響で休会が続き、井年度ですべき報告をする時間を確保する事ができませんでした。しかしクラブの国際奉仕事業として寄付を行い、また街頭にて市民のご厚情を頂いた募金を活用させていただいた事業でもあり報告は必須であり、新年度の委員会行事として「前年度（井年度）ラオス支援プロジェクト報告」をテーマに支援報告をさせていただきます。（役職名は前年度の役職で記載しております。）

さて井年度のラオス支援は、和田委員長発案で左記のテーマのもと支援の目的を明確に掲げ、活動を行いました。出発日は令和2年2月20日と決定し、奉仕プロジェクト委員会を中心に現地での奉仕活動の打合せを行い、当初計画では9名の会員が参加予定でした。しかし支援報告が遅れた理由でもある、折からのコロナ災



さて、話は変わりますが、本日の例会のために、赤尾様には足元の悪い中わざわざ千葉県松の松戸より厚木県央Rいただき本当に有難うございます。

我クラブも国際奉仕を手掛けて、立脇年度・井年度・今年度と3期にわたり医療物資・子供たちに笑顔を届けるプロジェクト、今期は農機具贈呈・農業支援への挑戦を企画しております。

本日の例会内容は新型コロナウイルスによる例会延期により、井年度にラオス訪問のご報告できなかった分、今日皆様への報告の時間を頂きました。松本会員がとってもわかりやすく画像収集を作ってくれましたので、松本委員長・関原会員より報告をして頂きます。

私のつたない話より今日は赤尾さんに少しでもお話を頂きたく、会長タイムはこの辺にしたいと思います。それでは、本日も宜しく願いいたします。

■今日のお花



ひまわり(北アメリカ)
花言葉(愛慕・崇拜)

禍の事前情報を井会長が鑑み、和田委員長を初め4名の会員の方には不本意ながら慎重を期し辞退いただき、5名の会員でラオスに向かう事となりました。(その頃はまだCOVID-19の影響については、現在の様な状況ではありませんでしたが。)



出発当日 思いがこもった会員手製の千羽鶴、活動に使用するラオスの子供達への景品が入っているダンボール箱に、井会長特製のステッカーを貼り、そしてクラブからの寄付を預かりラオスへ向かいました。早朝にもかかわらずNPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPANの永野さんが見送りにわざわざ成田空港まで来てくださいました。

そしてベトナム ハノイ迄の6時間のフライトに加え、ハノイの空港でトランジットが5時間という長旅のすえ無事ラオス・ルアンパバーンに到着。



当時の会長、会長エレクト、直前会長

写真のとおり荷物も受け取り無事ラオスに入国いたしました。夜遅い時間にもかかわらず思いがけず、赤尾さんの出迎えを受けホテルにチェックイン。その後タスクフォース(以降TFと略)は最終打合せを開き翌日の本番にそなえました。



明るく朝5時に起き、早朝に行われる修行僧の托鉢を見学。前日の強行軍にもかかわらず全員が寝坊する事なく参加いたしました。中国はすでに国境封鎖されており中国人はいませんでした。海外からの観光客、特にヨーロッパからの見学者が多数見受けられました。托鉢自体は真剣な行事として行われているのですが、かなり観光目的とされており、一つの行事化されている印象でした。

朝食を済ませ朝市を見学後、いよいよ支援の舞台であるラオ・フレンズ小児病院に向け出発。前日 赤尾さんに「マスクを必ずお願いします。」と厳命され写真の通り全員マスク姿です。

全員オックスフォードシャツで統一して活動の予定でしたが、立協直前会長は会長時の反動でサイズが合わなく、一人ポロシャツで参加する事になりました。

ホテルには赤尾さんが手配していただいたガイド兼通訳として、非常に日本語の堪能な現地人のブイ君が迎えに来てくれました。彼は以前、ラオ・フレンズ小児病院で赤尾さんと一緒に働いていたそうです。



ホテル前にて記念写真

いよいよ出発。ブイ君に連れられTFは車で10分ほどの場所にある病院に向います。

いよいよ目的地に到着。ブーゲンビリアが咲き誇っていましたが、今年は例年に比べてかなり寒いそうです。

病院まで来る道すがら、露店で商売をしている人がたくさんいましたが、道路状況が悪いので埃っぽく、清潔な水もなさそうなので手洗いやうがいもする習慣はないと思いますので衛生状態はかなり劣悪のようです。



ラオ・フレンズ小児病院正門



はっきり言って普通の日本人ではとてもではありませんが厳しい環境です。

会員からの手製の千羽鶴や子供達への縁日ゲームでの景品(この景品の原資は街頭募金の市民の浄財)、そして病院のスタッフが、レクリエーション活動時に利用してもらうためにプレゼントする、楽器などが入ったダンボール箱を病院スタッフの手を借りて運び込みます。さてさてこれからどうなるのか少々不安ですが。

クラブからの寄付目録贈呈

今年も一人でも多くの患者が救われる事を祈念して、井会長よりクラブからの寄付金が贈呈されました。



赤尾さんの指示のもと奉仕活動の準備にいそしむTF



いよいよ本番 「ラオスの子供たちに笑顔をお届けするプロジェクト」





この井会長の持っている景品のガチャと、和田委員長一押しの紙飛行機は残念ながら全くの不評でした。ガチャはただの丸いプラスチックの玉という認識で、中に景品が入っているという事がわからなかったのです。持っている箱のディズニーのキャラクターも全く興味がないようでした。言葉も通じませんので説明もできません。紙飛行機はもはや論外で飛行機に関心など無いのでしょうか。意外に人気があったのがシャボン玉で、単純で家でも作れるので少ない遊びの一つなのでしょう。



もう一つのプロジェクトが紙芝居です。高畑エレクトの棒読みをガイドのブイ君が見事に通訳してくれたので何とか成功したのではないのでしょうか。帰ってきてから井会長が高畑エレクトに「あれならエレクトがやらなくても、ブイ君にそのまま読んでもらった方がよかった。」

などとひどい事を言い放ちました。さすがの私にも一生懸命やったエレクトにそんなひどい事はいえません。

我がクラブ恒例の関原会員のバックミュージック。そしてイベント後半には日本から持参した鉄琴と木琴を井会長より病院スタッフに贈呈。スタッフともかなりコミュニケーションがとれプロジェクトの目的の一つである「病院スタッフと交流を図る」も達成できたと実感しました。これで子供達を楽しませて下さい。



目的の奉仕プロジェクトもなんとか達成する事ができました。

プロジェクト終了後、赤尾さんが病院の説明と院内の案内をしてくれました。



赤尾さんのデスク
ロッカーもないのでイスに服が掛けてあります。



昨年度この部屋からの同時中継例会で、立脇直前会長が点鐘を、井会長が「四つのテスト」をいたしました。私は日本でSAAとして例会の進行を務めましたがその時の事は鮮明に覚えています。まさか今年度、自分がここに来るとは思ってもおりませんでした。それにしても日本中に多数のロータリークラブがありますが、同じクラブが他国と日本で、同時中継例会を行ったクラブは滅多にないのではないでしょうか！



執務中のスタッフの部屋
書類を入れるロッカーもありません



今年から始めた院内農園前にて

赤尾さんの案内で病院内を見学させていただきました。病院は患者数に対してスペースのキャパが不足している事を感じました。職員用のロッカーや書類や資料を入れる棚などもほとんどありません。入院患者用のベッドも患者数が多く、少しでもベッド数を増やす為、通路や共用部を節約して確保しているほどで、付添の肉親は建物外の軒下の廊下で、毛布を敷いて仮眠をとっている状況です。そして費用捻出のため、今年から院内の余剰敷地を業者に依頼して開墾し、スタッフの手で農作物を収穫する事にしたそうです。TFが訪問する2週間ほど前に初収穫をしたとの事です。その見学を終え説明を聞いた結果、TFの今回の目的の一つである「補助金事業の候補」として、この院内農園の活用と支援を検討する事といたしました。



プロジェクトの最後に病院前での記念写真

ルアンパバーンの雰囲気

折角ですから、ルアンパバーンの街の雰囲気を少々。ここは市街地が世界遺産に指定されており、3階以上の建物は建てられません。それにしても風情も雰囲気もかなり次元の違う街です。街の名の由来ですが、ルアンパバーンとはラオス語で「大切な仏像がある場所」という意味だそうです。



朝市での風景



路上の花売り娘



寺院の仏像



ルアンパバーンの寺院



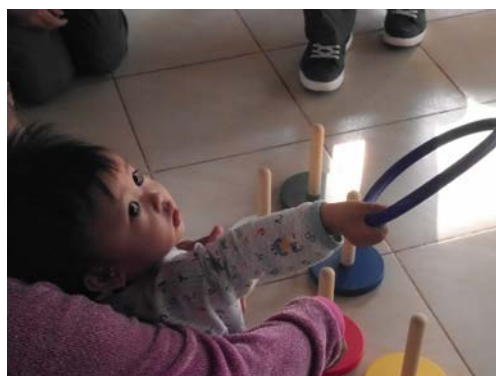
ナイトマーケットでの買い物と露店の少女



赤尾さんとの夕食会

世界の貧しい国家の現状を実感して

プロジェクトの最後に、帰国後この何気なく撮った写真を見て、腕を精一杯伸ばし我々に救いを求めている様な姿と、ピュアで悲しげな視線に「生命は平等ですが、生きていく事は平等ではない。」という事をふと実感しました。



今回の「AKRLTF」の活動を振り返って

ラオスの現状と親米への懸念



- 現在のラオスは私が生まれた時以下の社会環境だと思われる。
- 医療だけでなく、インフラ整備も遅い状況。
- 生活するための物はある程度あるが仕事があるのが疑問。
- 生活は自給自足の面が強く一次産業以外の職業は少ない。
- 国民性は温厚で治安は良いと推測される。(赤尾さんがあの時間に迎えに来ていただいた事を考えると。)
- 電力やエネルギー事情を考慮すると、新たな産業は限付きづらいためと思われる。
- 世界で一番毒蛇が多い国との事、蚊やハエなどの昆虫や爬虫類などが媒介する感染症も身近にあり生活のすぐ側に危険がある。
- 隣の飛行機から見た国土は、ベトナムまで山と谷しかなく平地は全く見当たらなかった。(まるで丹沢の山並みが逆方向まで傾いている様。) 開港のしようがない国土と感じた。
- 北に1000km以上の高速道路が工事途中が見えた。まさしく中国の一路一路の熟の道路で間違いないだろう。ただでさえ中国の衛星国のような国なので、今後更に属国化してしまうのではないかと懸念される。

「AKRLTF」反省と教訓

- 今回の活動では、仕方なくマスクをせざるを得なかったのが、最初のうちは子供たちが警戒心を持ってしまったようだ。
- ラオスの人に対して、我々日本人はかなり体格が大きい。飲酒後の日本人が米国人を見た時の様に、羨望の足りない彼らにとって巨人なのである。そのような大男(今回のメンバーは特に)がいまいる。実現の為の活動を始めたので一寸驚いたのではないかと。
- 上記の反省として活動に入る時、しっかり赤尾さんに紹介してもらい、挨拶をさせてもらう時間があればよかったと思われる。
- 昨年度の訪問は寄付の贈呈と同時中継例会の開催が目的であった。支援活動としては今回が最初の活動である。一つ一つの教訓を積重ねていく事で、今後の活動がより素晴らしい活動となるのではないかと。
- やはり他国への支援活動には心構えが必要である。ラオスは治安は良いとはいえ銃撃寸前だが虎やヒョウがいる可能性がある。またラオスという国名は「100万頭の象の王国」という意味があり、自然の豊かさを生息している。さらにメコン川にはワニも生息している。コブラなどの毒蛇も世界一いるそうなので、軽はずみに街から出る事は出来なければならぬ。
- 新型コロナウイルス感染拡大のこの時期に、激えて強行した事についての批判は甘んじて受け止めなければならない。(但し、是非に及ばず。)

■四つのテスト



伊藤 一君

■ソングリーダー



川名貴之君

■皆出席表彰



松本 豊君

■お祝い行事 会員誕生日



森 志朗君 (24日)

■出席報告 <会員 38名、出席対象 38名>

7月3日例会	確定出席率 89.47%	7月17日例会	出席 32名 欠席 7名 出席率 84.21%
		事前メイク： 石井 卓君(7月13日/地区)	